

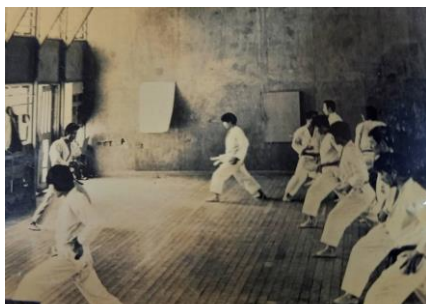
思い出の活動

秋田大学空手道場と旭川



昭和45年当時の秋田大学空手道部道場の木造建屋は、現在の弓道場の場所付近にありました。建屋内を卓球部と分割し道場として使用していました。建屋の前にはマキワラ、道場の壁には大鏡が設置されて、天井の梁からサンドバッグが吊り下げられていました。道場の隣には合宿所があり、冬休み前にここに寝泊まりして稽古に励みました。合宿最終日には道場を出発して千秋公園の横を通って旭川に入り、そこで形三戦、転掌や正拳突き等基本の技を公衆の面前で披露するのが毎年恒例の行事でした。昭和48年頃だったか、空手道場はこの木造建屋からコンクリート製の体育館の中に移動しました。

道場内稽古の様子

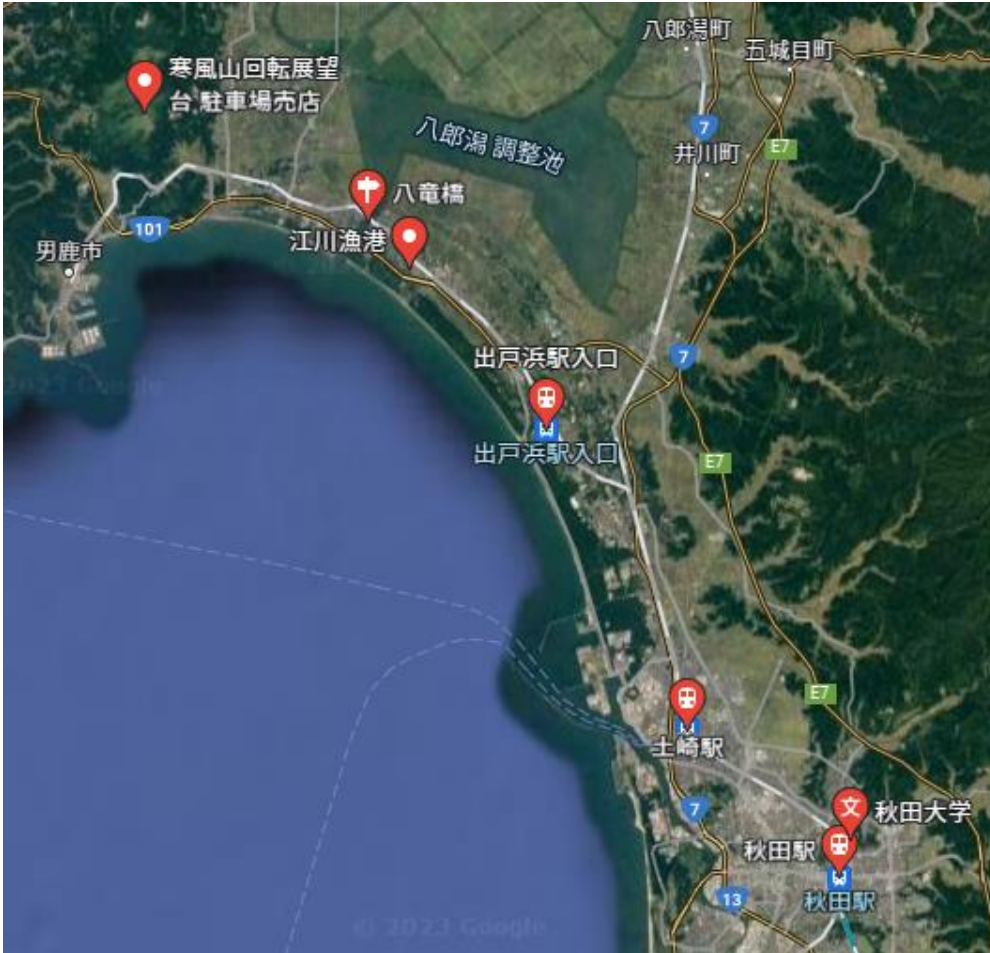


体育館横屋外稽古の様子



思い出の場所@寒風山走行

<秋田駅前から寒風山迄 40km の裸足走行経路>



昭和46年夏の早朝4時頃秋田駅前を出発して、土崎港、出戸浜駅、江川漁港、八竜橋を経由し、寒風山に到着した時には10時を過ぎていた様に思います。途中出戸浜駅入口付近で休憩し、師範やご家族のサポートを得て、空きっ腹におにぎりやブッカキ氷水を流し込み、ただひたすら主将の号令で走ったり歩いたりしてただけで、周囲の景色を眺める余裕などありませんでした。ゴール地点の寒風山に到達した時には終わったという安堵感とやったという達成感そして満足感がありました。この時の経由地をインターネットで調べてみたら、

土崎港

2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された曳山祭りがあります。

出戸浜

広い砂浜が続く海水浴場があり日本海に沈む夕日は迫力満点です。

江川漁港

つくり育てる漁業(車エビ種苗/真鯛稚魚/トラフグ標識の放流)

寒風山

世界三景と評価されたこともある壮観な絶景(360度の大パノラマ)

このような記事が紹介されています。またこの経路を辿ってみたいものです。

空手道部稽古の手引 (昭和46年前後)

1. 始 礼 五条訓
2. 準備体操 腕立て、腹筋運動
3. 基 本 突き、受け、打ち、当て、蹴り、払い、基本の連続技
4. 基本移動 三戦立ち、腰の押し出し、前屈、四股立ち、猫足、突き、蹴り他
5. 約束組手 (攻め手) 左右上段3本、左右中段3本、左右蹴り3本
(受け手) その場で外受けし下段の決め
左に轉身し突き又は蹴りを払って中断突き
6. 約手移動 上段/中段/下段の前屈立ち移動、下段の四股立ち移動
7. 肉体的鍛錬 小手表て、裏小手表て
8. 相互の移動 上段移動、中段移動、蹴り移動
9. 自由組手 時間：5分、10分、15分、20分、30分
10. 試 合
11. 型 サンチン、テンショウ、セイエンチン他
12. 整理体操
13. 終 礼

平成7年12月発行「石郷岡勇治先生を懐ふ 空手還郷-秋田空手道の歩み-」の161ページから164ページを引用、一部抜粋しました。

五条訓	
我等空手道を修むる者は	一 剛柔の道を学ぶをもって
	誇りとすべし
	二 礼儀を正しくすべし
	三 質実剛健を旨とすべし
	四 团结互助の精神を養うべし
	五 日本古来の伝統たる
	尚武の気風を尊重すべし

年月日 (場所)	昭和48年12月16日 (於秋田市旭川)
形「三戦」、「転掌」、正拳突きなどを披露した。	



年月日 (場所)	昭和48年7月 (於男鹿市寒風山に向て)
秋田駅前4時に出発し10里先の寒風山に10時到着した。	



空手道歌

一 花は桜木人は武士 空手の道は八重桜

散るを惜しまね 益荒男が集いてここに空手道

二 一拳必殺技を練り 心は万里一空ぞ

まこと険しき拳の道 これぞ空手の真髄ぞ

三 ころろにかなう娘あらば 妻の呼名で愛すらむ

清き男の子の心もて 浮世の山河三世まで

四 正拳手刀入り乱れ 上段下段に乱れ飛ぶ

入り身に入れば猿臂あり 捨て身の廻し顎を蹴る